平成29年度　江戸川区立南葛西小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○進んで学び くふうする子 ○思いやりのある子 ○健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○保護者・地域とともに歩む学校～「共育・協働・安心」の学校づくり～ ○「生きる力（知・徳・体の力）」を身に付ける子ども ○組織的な教育活動を推進し学校の教育力を高めつつ、自らの向上を図る教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞学校教育目標や学校経営方針を具現化するために、校務分掌組織を基盤にして学校全体で組織的に取り組むことができた。 個に応じた指導（学力向上）、体験活動（特活）、南タイムの取組（体力向上）において保護者の肯定的評価が増えた。 ＜課題＞「あいさつ言葉づかい」「支援の必要な児童への指導」「児童の安全管理」において2割以上の保護者が否定的評価をしており改善策を考えたい。 子どもの躾や学校の教育活動、PTA活動に関心の低い保護者が比較的多く、保護者の意識啓発、家庭の教育力の向上が大きな課題である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
21世紀にふさわしい教育の推進	学校図書館活用の推進	図書館を活用した授業の充実	本を活用した調べ学習授業の実施	保護者・児童アンケートの肯定的評価80%	B	B	図書館を活用した授業をけ計画的に取り入れていく。	B	図書館の団体貸出しで授業内容に合わせて選定し、良書を読ませたい。	読書科の実施と合わせて図書館教育を充実していく。
	ICTを活用した授業の推進	ICTを活用した協働学習等の授業の充実	eライブラリ補習6回 教員向けICT研修3回	保護者アンケートでの肯定的評価80%	A	A	タブレットを使い視覚的に分かりやすい授業が実施できた。	A	授業でとても活用されていてよい。	デジタル教科書とタブレットの活用研修を充実する。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	小中連携を踏まえた児童生徒の円滑な接続の充実	年2回、中学校と授業参観・意見交換会を開催。	保護者アンケートでの肯定的評価80%	A	A	小中連携教育プログラムを作成することができた。	A	地域の五校会の組織も生かしていくとよい。	中学校と連携しながらプログラムを実施する。
	オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	実施計画書に基づく年間35hの取組	児童アンケートの肯定的評価80%	B	B	オリンピックに対する機運を盛り上げ計画的に実施していく。	B	チャレンジデーも含めてもっと保護者も巻き込んでいくとよい。	オリパラルームの活用を図り、4つのテーマを計画的に学習する。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	補習タイム・・・週3回 サマースクール・・7回	診断シート正答率10% UP	A	A	診断テストではどの学年も正答率を上げることができ	A	補習タイムが充実していてよい。	ベーシックドリルを中心とした基礎的内容の習熟を図る。
	確かな学力の向上	チャレ問、ベーシック等を活用した国語、算数（数学）、英語の基礎基本の徹底	診断シート・・年3回 チャレンジ問題・・5年生	学力調査平均3P UP	B	B	漢字を含め、書くことを重点に指導していく。	B	漢字の細かい部分もしっかりとチェックされてよい。	「書く力の育成」をテーマとして校内研究を進める。
	運動意欲の向上	休み時間や体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間の全校運動遊び・・・月1回19種類	児童アンケートの肯定的評価80%	A	A	南タイムの成果が出て、肯定的評価は80%を超えることができた。	A	南タイムなどの取組で外で遊ぶことが多くなった。	体力向上部会を中心に運動遊びの内容を見直す。
相談体制健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	道徳地区公開講座でのいじめ防止公開授業	保護者アンケートでの肯定的評価80%	A	B	満足度が6割強であった。いじめアンケートの分析を行い、実態を把握して指導に生かしていく。	B	家庭でも学校でも子どもの気持ちに寄り添っていただきたい。	いじめ防止の取組を充実させる
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	校内委員会実施月1，2回	保護者アンケートでの肯定的評価80%	A	B	説明会や伝達講習等行ったが、さらに保護者に理解啓発を図る。	B	保護者への説明と共に子どもたちへの理解教育も必要である。	巡回指導理解教室を行う。
	エンカレッジルームの活用推進	支援を必要とする児童生徒へのエンカレッジルームを活用しての支援の充実	人員の配置 環境の整備	保護者アンケートでの肯定的評価80%	A	A	エンカレッジルーム（でんを含む）の環境を整備した。	A	エンカレッジルームの説明をさらにするとよい。	エンカレッジルームの資料を整備する。